

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	小笠 恵美子
主な担当科目	中級日本語Ⅰ/日本語文法とコミュニケーションⅠ/日本語文法とコミュニケーション研究Ⅰ(火1),中級日本語Ⅳ/日本語文法とコミュニケーションⅡ/日本語文法とコミュニケーション研究Ⅱ(火1),中級日本語演習/キャリアと日本語/実践日本語研究Ⅳ(火2),中級日本語演習/キャリアと日本語/実践日本語研究Ⅳ(火2),実践日本語研究Ⅲ(火3),実践日本語研究Ⅲ(火3),日本語と日本社会Ⅰ/日本語と日本社会研究Ⅰ/中級日本語Ⅰ(水1),日本語と日本社会Ⅱ/日本語と日本社会研究Ⅱ/中級日本語Ⅳ(水1),実用日本語Ⅱ/実用日本語研究Ⅱ/中級日本語Ⅳ(水2),実用日本語Ⅰ/実用日本語研究Ⅰ/中級日本語Ⅰ(水2),中級日本語Ⅱ/日本語日本文化Ⅰ/日本語日本文化研究Ⅰ(水3),中級日本語Ⅱ/日本語日本文化Ⅰ/日本語日本文化研究Ⅰ(水3),日本語文法とコミュニケーションⅢ/上級日本語Ⅱ/実践日本語研究Ⅱ(木1),日本語文法とコミュニケーションⅢ/上級日本語Ⅱ/実践日本語研究Ⅱ(木1),日本語と日本社会Ⅱ/日本語と日本社会研究Ⅱ/中級日本語Ⅳ(木2),日本語と日本社会Ⅰ/日本語と日本社会研究Ⅰ/中級日本語Ⅰ(木2),中級日本語Ⅲ/日本語日本文化Ⅲ/日本語日本文化研究Ⅲ(金1),中級日本語Ⅲ/日本語日本文化Ⅲ/日本語日本文化研究Ⅲ(金1),中級日本語Ⅰ/実用日本語Ⅰ/実用日本語研究Ⅰ(金2),中級日本語Ⅱ/実用日本語Ⅳ/実用日本語研究Ⅱ(金2)
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	時間割の兼ね合いからレベルの異なる学生が授業に参加していることを鑑みて、学生の個性性に配慮して授業を進める。
2024年の教育に関する自己評価	2024年度は特に日本語のコミュニケーション力のある学生の参加が多かったため、そういった学生が学びが得られることを意識して授業を行った。特に、課題提示に際して、課題を提出するまでのプロセスの重要性を学生が理解できるように、プロセスの段階を示した。
2024年のFD活動に関する自己評価	学内で行われたFD研修会に参加し、分科会ではファシリテーターの一人として記録をとり、全体に対する報告を行った。
授業改善のために取り入れた研修内容	2024年度 FDSD合同研修会 分科会での話し合いで、UNIPAが付かない学生がいるとの発言を受けて、UNIPAに出ている情報を授業を授業内で共有したり、使い方を確認したりした。特に留学生は言語の諸壁により情報を得ることが遅くなることがあるため、配慮した。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3021 教員名:小笠 恵美子

授業アンケートの対象となる授業

日本語文法とコミュニケーションⅡ/日本語文法とコミュニケーション研究Ⅱ

日本語文法とコミュニケーションⅢ/日本語文法とコミュニケーション研究Ⅲ

日本語と日本社会Ⅰ/日本語と日本社会研究Ⅰ

日本語と日本社会Ⅱ/日本語と日本社会研究Ⅱ

実用日本語Ⅰ/実用日本語研究Ⅰ

実用日本語Ⅱ/実用日本語研究Ⅱ

日本語日本文化Ⅰ/日本語日本文化研究Ⅰ

日本語日本文化Ⅲ/日本語日本文化研究Ⅲ

実践日本語研究

キャリアと日本語/キャリアと日本語研究

1)アンケート結果に対する所見

アンケートの内容を見ると、全体として、問 5(授業の内容に対する興味関心)問 8(授業の到達目標の達成)に対する答えが低いことがわかる。学生が自分の努力に厳しい目を持ち、さらに向上したいと考えていることが感じられる。授業に求めること(試験に耐えられる言語の知識なのか、即座に反応する運用能力なのかなど)は学生と教員で異なることがあるが、学生が「学んでいる」と感じることは学習動機の維持に影響があるため、学生の求める授業内容にも配慮して授業内容を決めていきたいと思う。

2)要望への対応・改善方策

複数の授業で教員の態度について「辛抱強い」というコメントと「厳格だ」というコメントをもらった。複数の授業をとっている学生が同じコメントを書いたことが推測される。授業中に教室の後ろのほうまで回って課題をすることを求めることに対するコメントだろう。選択の授業で、学部、短大、大学院、研究生が参加しているので、授業参加理由が異なるという事情はあるが、参加している以上、「座っていれば時間が過ぎていく」のではなく「授業構成者の一人として参加する」ことを求める。厳格に感じられるかもしれないが、語学の授業で話す相手が参加しないと、クラスメートが困ることを理解してほしいと思う。

3)今後の課題

授業で扱った読解の文章が難しかったというコメントがあった。難しい理由は文章の背景についての知識によるのではないかと考える。文章の解説は、語彙や文法の解説に時間をかける傾向があるが、文法よりも背景説明に力を入れて理解を促していこうと考えている。

以 上